

進まない債務整理 ～ストレングスモデルの実践～

弁護士・社会福祉士
浦崎寛泰 Hiroyasu Urazaki

精神保健福祉士・社会福祉士
佐藤香奈子 Kanako Sato

I 事例編

とある若手弁護士（以下「弁」）が、独立型事務所を経営するベテランのソーシャルワーカー（以下「SW」）に、受任事件の悩みを相談しました。

❖ 1 受任後にヤミ金から借りてしまった依頼者

弁 債務整理の事案でご相談です。依頼者は30代の男性です。消費者金融5社から約100万円程度の負債があるということで、破産申立ての方針で調査を進めてきました。

ところが、最近になってヤミ金から新たに借り入れをしていることが判明しました。依頼者から詳しい事情を聞こうと電話をしてもつながらず、折り返しもない、ということが続きました。やむなく辞任の可能性を手紙で伝えると、電話がかかってきて、何とか続けて欲しいというので、結局そのまま続けることになりました。この依頼者は、職場でもいろいろトラブルを起こしているようで、発達障害の疑いもありそうです。この先どのように債務整理を進めたらよいか、悩んでいます。

SW 発達障害が疑われる、とのことですが、受診歴などがあるのでしょうか。また、職場でのトラブルとはどのようなことでしょうか。

弁 受診歴はなさそうです。依頼者本人も、そのような自覚はなさそうです。ただ、現在小さな印刷会社で事務をしているのですが、その勤務先の社長さんの話では、他の同僚から仕事のやり方について注意されたところ突然大声を出したり、独自の判断で仕事を進めてしまったりと、非常識な行動がみられる、とのこと。今回の債務整理も、この勤務先の社長さんが心配して当事務所に連れてきてくれました。過去にも、借金の一部を社長さんが肩代わりしてくれたこともあったそうです。

SW 先生が依頼者さんと話して、会話のなかで何か気になる点がありますか。

弁 会話自体は普通にできると思うのですが、依頼者になぜ借金が増えてしまったのかと聴いても、「会社の給料が安いからだ」などと会社や周囲への不満ばかりで、自分の生活態度などを顧みる様子がみられません。また、同じ服や靴を何度も購入するなど、お金の使い方に不自然な点もあります。理由を聞くと「予備がないと不安だから」と言っていました。

SW ご家族はおられますか。

弁 両親が幼少期に離婚し、20歳ころまでは母親と暮らしていたようです。ただ、依頼者が高校を卒業して働くようになって、依頼者の給料はすべて母親が管理し、1日に決まった金額だけを依頼者に渡していたとのこと。それに反発した依頼者は、母親と喧嘩をして家を